昭和大学歯学部だより　2007．6号

通算43号
2007．6．30発行

歯学部創設30周年

発行責任者：歯学部長　宮崎　隆，編集責任者：広報委員長　五十嵐　武
〒142-8555　東京都品川区旗の台1-5-8　TEL: 03-3784-8000
ホームページ：http://www. showa-u. ac. jp

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えました.

ご挨拶：19年度にやるべきこと

歯科病院長　岡野　友宏

私たちの病院はいうまでもなく大学の附属病院であり，患者さんの問題を解決する場であると同時に教育研究を推進する場でもあります．しかしそれを実現するためには確固たる財政基盤を要します．

歯科病院は国庫から大学法人経由で教育研究に関わる経費，それは主として教員の人件費ですが，かなりの金額がすでに投入されています．主たる収入源は医療収入ですが，歯科医療保険費の抑制や教員定員の削減もあって，この数年は16億円程度で横ばい状態です．一方で支出は長期にわたり様々な合理化策を講じてきて一定の抑制効果がありました．しかし同時にこの2年間の情報システムの更新や建物のメンテナンスに代表されるように億単位の事業を継続していかねばなりません．その費用は「天」から降ってくるわけではなく，すべて自ら稼ぎ出した資源を以って充てなければなりません．実はこの部分が毎年の歯科病院の赤字部分に相当しています．1－2億円の赤字が続いており，このままですと歯科病院は破産します．大学のしかも教育基幹病院であれば破産する前に援助があると期待するのは自由ですが，今般の歯科医師過剰問題に発した新規参入歯科医師の抑制策はある意味，歯学部はもはや要らないという国家的宣言であり，社会的には赤字を抱えた歯科病院は不要と考えることはあながち，ありえないことではありません．ですからこれまでと同様ないしそれ以上の患者サービスと教育研究を望むのであれば，また従来どおりの新規事業を継続していくのであれば，少なくとも2億年の増収を図ることが必要です．この金額は現在の医療収入の10数%ですが，人員の削減などを考慮すると，診療医の先生方は20%の診療実績の向上を目指す，あるいはインフラを支える組織にあっては20%程度，仕事量を増やすということを意味します．歯科病院の全ての構成員はこれまでよりも20%，余計にがんばって2億円の増収を図る，これが19年度の目標です．

さて，今年は特に大きな事業計画はありませんので，逆に診療の質の維持・向上を図るいい機会です．私は今年度，次の事項に力を入れていきます．1）総合診療部門の強化，2）新診療部門の強化，3）地域歯科医師との医療連携の強化，4）法人内病院における歯科医療の充実，5）症例の共有，の5点です．

まず，総合診療部門ですが，現実にはそういう名称の診療部門はありませんが，一般の歯科診療を行う部門の総称とお考え下さい．歯科病院の主力部隊でもあります．臨床研修・臨床実習の質・量の向上に最も重要な役割を果たします．それぞれに得意な領域ないし診療科名がありますが，そういう専門診療と同時にごく一般的な診療も行いますので，診療科・講座を超えた協力が欠かせません．ここの構成員が充実した診療ができて満足を得られたとき歯科病院は再生します．

新診療部門の顎関節症科，美容歯科，インプラント科，障害者歯科はまさにその力が問われる年です．それぞれにフィロソフィーがあり，それに沿った質の高い診療を実践していますが，実績が求められます．地域の歯科医院との連携はこれまでも度々強調されてきましたが，地域の先生や患者さんの身になって協力できる人の養成と組織としての体制を整える必要があります．少なくとも朝8時から夜12時までの間，どんな歯科的問題にも対応できる要員を確保するべきです．こういう姿勢は学生・研修医教育上も極めて重要な点です．

法人内病院において求められている口腔ケアについて，これに応じられる人材の養成とともに，支える組織を構築します．今後増加する後期高齢者への口腔ケアや様々な障害を抱えた方々の摂食嚥下指導は本院の得意分野であるはずです．内科との密な連携も必要です．学生たちの臨床教育上でも重要な点です．

専門診療分野では日々，様々な患者さんに遭遇し，診断に苦慮し，治療では必ずしも期待した予後が得られないことがあります．そういう症例を共有し個々の診療能力を高めることが重要です．そのために診療科単位とは別に病院単位の症例検討会を企画します．

以上を行うにあたって何よりも強調されねばならないのは患者さんが医療の主人公であること，その患者さんの安全の確保を何よりも優先する姿勢です．その実現には病院の構成員全員が自ら進んで汗を流す気になれる病院でなくてはなりません．そのために私は努力しますが，皆様にはご協力のほどよろしくお願い申し上げます．

平成19年度父兄会総会開催される

歯学部長　宮崎　隆

去る6月23日午後2時から本学上條講堂に於いて，平成19年度父兄会総会が開催されました．梅雨の合間の真夏日でしたが，上條講堂は二階まで超満員の出席者でした．平成18年度の決算，平成19年度の事業計画と予算案が承認され，5年間会長を務められた吉澤先生から四ノ宮先生に会長がバトンタッチされました．吉澤先生は父兄会の互助会制度を立ち上げられ，父兄会の運営に指導力を発揮され誠にありがとうございました．

同日は総会に先立ち，午後1時から歯学部6年生の父母説明会，引き続き2時から6年生学生説明会を開催し，立川学生部長から卒業判定，大学院制度，および国家試験対策等について，古屋臨床研修医マッチング支援委員長から卒後研修制度とマッチング登録の方法について，そして長谷川総合診療歯科科長から本学歯科病院の研修プログラムについて説明がありました．

総会終了後，各学部に分かれて各部会を開催しました．歯学部は参加者が多く，例年の1号館7階講堂では入りきれないので，4号館5階500号室に移して開催しました．宮崎学部長から歯学部の現状とさらなる評価向上を目指して挨拶があり，岡野病院長から歯科病院の現状と今後の展望，立川学生部長から学務全般に関する説明がありました．

最後は7号館に場所を移し，4時15分から4学部合同の懇親会を開催しました．こちらもご父母の参加が多く，超満員でしたが，小口理事長，細山田学長，諸星学生部長，各学部長を交えて楽しい歓談をし，午後5時半過ぎに散会しました．

平成19年度昭和大学白菊の集い

口腔解剖学　江川　薫

平成19年度昭和大学白菊の集いが，6月16日（土），七号館（五十年記念館）で執り行われました．

白菊の集いは，医学部・歯学部の人体解剖教育のために，死後に自分の身を献体として提供して頂ける白菊会会員の方々に感謝の意を込めて，毎年この時期に行っています．

本年度は医学部会員113名・同伴者28名，歯学部会員79名・同伴者16名の合計236名の方々が出席されました．また，歯学部の2年生の学生が，会場内外の道案内，出席者の食事の準備等のために参加しました．12時30分から会が始まり，開会の辞として，歯学部口腔解剖学教室の中村教授から，出席者の方々に感謝の言葉がありました．続いて，これまでにご献体して頂いた物故会員の方々のご冥福をお祈りするために，参加者全員で黙祷を捧げました．

引き続き，細山田学長，安原医学部長，宮崎歯学部長の挨拶の後，歯学部口腔リハビリテーション科の高橋准教授による講演が行われました．演題は「いびきに注意！－快適な睡眠を得るために：閉塞性睡眠時無呼吸症候群の診断と対応－」でした．出席者のなかには実際に悩んでいる方もいて，皆熱心に講演を聞いており，講演後には予想以上の多くの方から質問がありました．

最後に，医学部第二解剖学教室の大塚教授から閉会の辞があり，来年の再会を約束して，盛会のうちに2時30分に終了しました．

H19年度　D6選択実習

選択実習委員会 委員長　山本　松男

歯学部6年生は4月16日から6月16日までの期間，2週間を1単位とした臨床・基礎プログラムを2単位選択する「選択実習（必修）」を実施しました．選択実習は必修化されて2年目となり，D6学生94名が2プログラムずつ，合計188プログラムについて，臨床から基礎まで幅広い分野の理解を深める機会となっています．

本年度は学外プログラム選択が大変多くなり，学外の22施設へ32人，海外には2施設2人（アデレード大学，大連医科大学）がお世話になりました．歯科病院診療科だけでなく基礎講座のご協力も得て臨床を基礎の側面から見つめ直す機会も設けることができました．より複雑化し，要求される質も高くなる歯科医療の変化に対応するために，①自ら進んで学習する習慣を身につける，②医療連携の重要性を理解し社会性がある，③生涯にわたって学習し続ける，など本質的な実力が要求されるようになってきています．学年ごとのカリキュラムの見直し等により，教育現場では活気が溢れています．狭い現場で医療に，教育に，研究にと多少窮屈な側面もありますが，学生諸君の積極的な姿勢と，教育に携わる教育スタッフのご理解・ご協力により，新しい取り組みの一つとして着実に進行しています．より広い医学・歯科医学を経験・学習する機会を得て，昭和大学歯学部生に広がりのある成果が得られたことと思います．

選択実習を経験して

歯学部6年　佐藤　仁

私は生化学教室にて2週間の選択実習を行いました．生化学はどちらかと言えば昔から苦手な科目で臨床実習において勉強する機会もほとんどなかったため，その苦手意識を克服し，勉強不足を補う目的で選択しました．

実習の内容は基本的な生化学の実験を毎日いくつもできる非常に中身の濃いものです．生化学というとDNAやRNAに始まり，内容が難しく敷居も高いようにも感じますが，実験の前には簡単な講義があり，実験中も教室の先生がつきっきりで手順や方法を指導して下さいます．疑問が生じればその場で質問できる環境にあり，また考える時間も十分にあります．そのため何もわからず最初は言われるがままに実験をしていたはずが，最後は今手に持っている試験管の中で起こる目に見えない分子レベルの変化を自分の頭の中で考え，整理しながら実験結果を想像できるようになっていました．

私達が臨床で遭遇する患者さんの症状も，またそれに対し行われる処置にも全てに生化学的な現象が関わっている事は言うまでもありません．しかし全ての技術の基礎となる分野でありながら，自分一人ではなかなか理解する事の難しい分野であるのも事実です．教室の先生方と少人数でたっぷりと時間をかけながら生化学の基礎を学び，生化学そのものの面白さも教えて頂けたとても充実した実習でした．

選択実習を経験して

歯学部6年　菊池　正高

私は，今回の選択実習で口腔病理学と歯周病科に参加させて頂いきました．

口腔病理学教室では，病理標本の組織写真撮影とその診断および口腔外科から依頼された迅速病理診断に参加しました．病理標本の写真撮影では，基礎実習では学生が絶対に使わせてもらえないような装置に触れることができ，効率的に病理標本を撮影することができました．撮影した標本は先生方にみていただき詳しい説明をして下さったので，病理診断の勉強だけでなく国試対策にもなりました．迅速病理診断では，オペで採取された組織を標本にするまでの過程，次の病理診断までを見学できたので，実践的な知識が身につきました．

歯周病科では，外来，歯周外科手術，症例の治療計画立案，諮問，4年生の基礎実習などに参加しました．外来見学では，先生方は面倒見がよく，診断の仕方や治療方針などを丁寧に教えて下さり，疑問に思ったことも質問しやすかったので有意義な実習が出来ました．歯周外科手術はローテーションの時にはなかなか見学する事ができなかったのが，今回は積極的に参加することができ，選択実習の利点だと思いました．実際のオペをみることは，教科書で見るだけで勉強するものとは印象がまったく違う事を改めて感じました．歯周治療計画は，勉強不足もあり四苦八苦しながらも何とかこなす事が出来ました．臨床の現場では患者さんは待ってくれないので，より素早く正確な診断が出来る知識と経験が必要だという事を改めて痛感しました．選択実習では，これまでの実習よりワンランクアップした内容を勉強することができました．先生方との距離も近くなり各科の特色や医局の雰囲気も知ることができて，将来自分の進路を決める上で大変参考になりました．自分が一人で臨床の現場に立つ事になったらという視点で見学すると，知識や技術だけでなく，患者さんとの対応の大切さを改めて感じさせられました．当たり前の事ですが，臨床は人対人が基本で，良い治療を行うためには患者さんとの信頼関係を形成する事が大切だということを改めて学びました．選択実習は今までと違った視点で学べるカリキュラムになっているので，私にとって新鮮でとても充実した4週間となりました．

学会賞受賞

広報委員長　五十嵐　武

平成19年5月20日に神戸で開催された第116回日本補綴歯科学会学術大会に於いて，加藤先生と望月先生が下記の賞を受賞されました．

・加藤　秀昭（歯科補綴学教室　普通研究生）

平成18年度　特定推進研究優秀論文賞

論文名：「脱アセチル化キチン−TYPE Ⅰ コラーゲン複合化ゲルの骨髄由来未分化間葉系細胞への影響」

・望月　文子（口腔生理学教室　助教）

平成18年度（第115回）日本補綴歯科学会学術大会課題口演コンペティション優秀賞

演題名：「硬組織再生材料OCP（octacalcium phosphate）による破骨細胞の分化誘導機序の解明」

行事予定

広報委員長　五十嵐　武

7月　6日（金）：第12回夏季スポーツ大会壮行会
7月21日（土）：昭和大学4学部合同進学説明会
7月22－24日：第13回昭和大学医学教育者のためのワークショップ
7月28日（土）：第1回歯学部進学相談会（洗足キャンパス）
8月21－23日：第12回昭和大学歯学教育者のためのワークショップ
8月25日（土）：第2回歯学部進学相談会（洗足キャンパス）

米国で活躍する日本人歯科医師の講習会

美容歯科　真鍋　厚史

去る5月28日夕方5時半より歯科病院にて，米国ロスアンジェルス在住の日本人歯科医師清水籐太先生をお招きして臨床研修医，大学院生，学生を対象とした「アメリカ臨床留学情報」と題して約1時間半の講演を昭和歯学会主催で開催しました．先生は鹿児島大学をご卒業後，自衛隊歯科勤務を経て南カリフォルニア大学（USC）大学院に進学されました．その後米国歯科医師免許，さらに歯内療法の専門医資格を取得され現在はロスにてご開業されています．

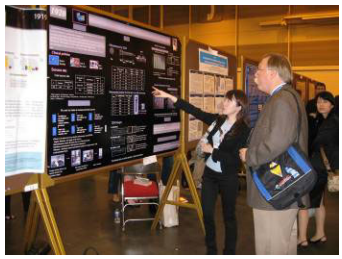
講演内容は先生の豊富な臨床経験，留学体験をもとに3つのトピックスについてわかりやすくお話いただきました．すなわち米国での学部教育・専門医教育・歯科医師免許取得システムについて，実際の患者治療と治療費の概要，そして昭和大学からUSCへの研修生の受け入れ態勢についてでした．既に昭和大学歯学部は宮崎学部長をはじめとする諸先生方のご尽力によりUSCとの学部間交流プログラムを締結し，まさに卒後研修プログラムについても近々具体化をする運びになっており，タイムリーな講演で会場はほぼ満席という盛況振りでした．

特に国家試験の複雑さや専門医に対する国民の意識の高さ，それに伴う治療費の位置づけは驚愕の一途であり，とても日本と比較することは困難であると痛感いたしました．しかしながら日本の歯科医療，学術水準が米国のそれに決して劣っているわけではなく，ひとえに日本の医療経済に対する考え方がこのような格差を生じさせたように思われます．若い先生は米国のみならず全世界の歯科医療を日本と比較，探求するためにも是非とも留学に挑戦していただきたくお願い申し上げます．

第85回　IADR に参加して

歯科理工学教室　堀田　康弘

去る3月21－24日に，第85回IADR総会・学術大会に参加してきました．今回のIADRは，2005年8月にアメリカ合衆国南東部を襲ったハリケーン・カトリーナによる被害から復興間もないルイジアナ州ニューオーリンズでの開催ということで，新聞報道などで見ても治安が悪く危険なのではないかと散々言われていました．実際の演題数はプログラム上の番号で3012演題と非常に沢山の演題が寄せられていましたが，この治安の悪化が関係したのか演題の取り下げも133演題あり，ポスター会場にいても空白のボードが多く目に付きました．日本からの演題は291演題あり，昭和大学からは矯正科間所先生と放射線科岡野先生による口頭発表を含め14演題の発表があり，活発な研究発表がされていました．



今回学会が開催されたコンベンションセンターは，ミシシッピー川の畔にあるショッピングモール（リバーウォーク）に隣接した全長1600mにも及ぶ大きな建物で，その中でもIADRの会場として使用されていたのは，私たちが泊まっていたホテルから一番遠い端にあり，通うだけでも一苦労でした．現地は思っていたほど治安が悪い印象は受けなかったのですが，それでも町のあちこちには修復がされないままの建物も残っており，ハリケーンの凄まじさがうかがわれました．

次回のIADRはカナダのトロントで開催されますので，昭和大学からも是非また沢山の研究発表があることを期待しております．

専門医・指導医

広報委員長　五十嵐　武

菅沼　岳史：日本補綴歯科学会指導医　取得
東　　昇一：小児歯科学会認定医　取得

診療統計　（平成19年5月分）

医事課課長　長谷　孝義

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	16，931	705．5	712．4	696．4
入院患者	305	9．8	13．3	9．2

（土曜日半日も1日として扱うため，平均は見かけ上下がっている）

編集後記

広報委員（口腔組織学）　馬谷原　光織

梅雨の季節ですが，ここ数日は汗ばむほどの陽気です．地球温暖化といわれる，大きな変化が　ゆっくりと訪れているのでしょうか．本学歯学部にも社会情勢に合わせた進化が要求されています．大きな変化に乗りながら，めまぐるしい日常とのバランスをとる必要がありそうです．今月は選択実習など学生寄稿が多くあり，御担当の先生にはお手数をおかけしました．学生寄稿は次号以降も順次掲載予定です．末筆ではありますが，執筆していただいた先生方にこの場を借りてお礼申し上げます．